

読者からのメッセージ

1999年5月から始まったユニオン・オープンハウスも、回を重ねその内容を伝える要録集も第20号を発行することができました。第11号から第20号までをまとめた「総集編Vol.」を発刊するにあたり、外部の読者の方々から貴重なメッセージを頂きましたので、今号から順次掲載しご紹介させていただきます。

(掲載は投稿順とし敬称は略させていただきます)

オープンハウスを軸とした さらなる新しい活動への 発展を期待します

(財)ひょうご環境創造協会
副理事長

小林悦夫



ユニオン・オープンハウス20回開催おめでとうございます。3年半ほど前に関谷さんから「これからの労働組合は労使交渉ばかりではなく、新たな活動を行かなくてはならない。その一つとして、組合員の研修、討議の場としてこのオープンハウスを開きたい。」との話を伺いました。私は、その少し前に連合(日本労働組合総連合会)社会政策局の高橋次長と同様な話をしていた矢先でもあり、大賛成し協力したい旨の返事をしたことを覚えています。そのようなことから1999年5月に開催されたオープンハウス第1回目の講師を引き受けさせて頂くことになりました。私の講演がどの程度の反響であったのか不安でしたが、その後、モンゴルでのボランティア活動が始まり大変うれしく思っています。私が、現在勤務している「ひょうご環境創造協会」でも、モンゴルでの植林活動を進めてきており、今後、相互協力によりモンゴルでの活動がさらに発展して行ければと期待しています。今後とも、このユニオン・オープンハウスがさらに継続し、これが契機となって新しい活動へと発展していくことを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



「モンゴル」がキーワード 環境と共生の交流を

但東町長

奥田清喜



「ユニオン・オープンハウス」総集編Vol.2の発刊を心からお祝い申し上げます。パンテックユニオンの関谷委員長さんにお会いしてから、かれこれ2年になるでしょうか。わが町のモンゴルとの交流を「小さな町の国際交流」と聞かれ、また、下水道事業を通じての会社とのおつきあいもあり、たびたび訪ねていただくようになりました。そして環境問題とボランティア活動の2つをテーマとして活動されていることを知り、異色の労働組合活動？を通じて21世紀の社会に大きな貢献をされていることに敬意を表しています。私の町は、昭和58年から地域おこしの活動として「但東シルクロード計画」を樹て、ふるさと再発見運動を基本とし、都市と農村の交流をテーマに町づくりを続けています。絹織物の産地として、「但馬ちりめん」が、但東の道から、京街道を通じて、京都西陣へ運ばれる「絹の道」即ち「シルクロード」と位置づけ、人、モノ、文化の交流により地域の活性化に結びつけています。モンゴルとのおつきあいも10年を超え、特に平成6年41名のモンゴル人を招いて「森と砂漠のシンポジウム」を催してから急速に高まり、大自然の中で懸命に生きる共通点から、環境と共生が叫ばれる21世紀にふさわしい交流を続けています。草原火災や雪害などのお見舞い、小中学生の交互派遣と受入れ、使節団の相互訪問、画家の芸術家活動支援など小さな規模ですが確実に心のつながりが深まっています。今年の10月も遊牧民の子どもや孤児院の子どもなど14名が来町し、ホームステイをしながら但東町民と交流しました。日本でただひとつの「日本・モンゴル民族博物館」を持ち、異文化を全国に発信しています。貴ユニオンとも連携しながら、活動の中味を濃くしたいものです。



真摯に取り組む姿勢が 母体である企業そのもの の評価も高める

生活協同組合 コープこうべ
福祉・環境活動部 環境部長

南川 正昭



初対面の会社と商談するのはとても難しい。製品は良いものと分かっている、信頼できる会社なのか、人なのか良く分からない。必要に迫られていない限り、話を聞くだけに終わってしまう。そんなある会社の役員と技術コンサルタントの方と商談をした。この技術コンサルタントの方が神鋼パンテツクのOBと聞き、人相が良くないことが逆に信頼感溢れる印象に変わり、すっかりこの会社のことが気になってしまった。今、私の手元に20集の「ユニオン・オープンハウス要録集」と7集のボランティア通信がある。パンテツクユニオンから送られてきたものだ。セミナーに参加できなかったメンバーに、貴重な講演内容を広く組合員に知ってもらうことは他にも例があると思うが、手間と費用をかけて企画されたものを社外の私たちのところまで、毎回律儀に冊子を送っていただくことは余り例が無いことと思う。「オープンハウス」からはさまざまなセミナーで講演された内容がきめ細かく伝えられてくる。社外の講師と共に社内講師の話しもまとめられてくる。いわば神鋼パンテツクが現時点での問題意識や社内の課題をさらけ出しているともいえる。企画された講演内容が良質であること、セミナーの違いにより幅広い課題が取り上げられていること、専門分野での独自性、海外で活躍している企業活動と優秀な人材の集まる会社が窺い知れ、この冊子を通して「神鋼パンテツク^{びいき}覇^{びいき}」になった私が誕生した。OBを技術顧問に迎え、厳しい経済状況のなかで頑張っている会社にエールを送りたくなったのもこの「ユニオン・オープンハウス」が原因に違いない。今後ますますパンテツクユニオンが発展される様、声援を惜しまないつもりだ。



これからの労働組合の 活動に社会貢献は不可欠

兵庫県議会議員

宮本博美



平素は県会議員宮本に対し、温かいご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。さて、環境問題とボランティアを二大テーマとされた、「ユニオン・オープンハウス要録集」が20号を迎えられることに対して、心より敬意を申し上げます。私は先月、三木市の三木ホースランドパークにおいて開催されました、第10回全国障害者交流乗馬大会を見させていただきました。全国各地から知的障害者、肢体不自由者、全盲等の視覚障害者の方々約80名が参加され、私達に大きな感動を与えてくれました。乗馬競技が終えた直後に万歳をされた知的障害者の姿、表彰式で大粒の涙を流された方々、またこの大会のサポーターとして参加した多くのボランティアの方々など関係者の皆さんとともに喜びを分かち合ってきました。21世紀は成熟社会の中で心豊かな社会作りが求められています。この障害者乗馬大会を見させていただき、感激と同じに今私達が取り組まなければならない課題が判明したと思っています。労働組合の活動も企業内にとどまることなく、社会に貢献しなければいけないし、今後益々期待されていると思っています。パンテックユニオンのみなさんがオープンハウスの活動により、更なる発展と飛躍されることを心より祈念申し上げ、お祝いのメッセージとさせていただきます。

